

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201254		
法人名	社会福祉法人 貴船会		
事業所名	グループホーム大観苑 (ユニット名)そよかぜ		
所在地	大分県別府市鉄輪東8組		
自己評価作成日	平成29年9月4日	評価結果市町村受理日	平成30年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「お客様が主人公になれる施設づくり」を目指しています。別府を一望できる静かな環境に加え、天然温泉が利用でき、ゆったりとした時間の中でアットホームな雰囲気の中で生活が送れます。又、2つのユニットが廊下伝いにあることで入居者・職員ともに行き来でき交流や協力ができる環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・高台に位置し部屋からの眺望が素晴らしい。
- ・温泉が引かれ浴槽は広く、仲の良い人同士での入浴を楽しんでいる。
- ・一人ひとりその人に合った支援が行われており、時間に縛られず自由に過ごすことができ自立に向けてのケアに繋げている。
- ・医療との連携が取られ、安心して生活できる。
- ・ボランティアや学生の実習を多く受け入れている。
- ・毎月1回広報紙を発行し、家族へ施設での様子を知らせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様が主人公になれる施設づくり」の理念が職員全員に定着しており、実現に向けて取り組んでいる。朝礼でも運営理念を復唱している。	理念を目につきやすい所に掲示しており、朝礼や月初めの会議において復唱し、振り返っている。利用者が主人公になれるよう、その人の意向に沿った個別支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議には地域の民生委員や地域医療に携わる医師にも参加を要請している。またボランティア活動の受け入れや地域の祭りへの参加などで交流している。	地区の秋祭りではお神輿や獅子舞、おはやしが事業所まで来てくれて利用者が迎えている。書道などのボランティアや看護学校の実習生、幼稚園児のおゆうぎなど数多くの来所があり、地域との交流が常に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	別府市グループホーム連絡協議会を通して、市民の方々に認知症高齢者への理解や支援の方法等の講演会を開催している。また研修生等の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議には地域住民をはじめ、地域医療に携わっている医師などにも参加してもらい、サービスの向上に活かしている。また広報誌などにより活動内容を説明している。	2ヶ月に1度開かれる運営推進会議には民生委員や市の担当者、家族等の参加がある。医師の参加は毎回あり充実している。会議ではヒヤリハット等の質問が出る。事故については普段より運動をして転倒しないよう努め自立支援につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の議事録は毎回、市役所に提出している。また市役所からの通知などは事業所にメールで届くようにしている。意見・要望などもメール等でやり取りを行っている。	運営推進会議でも助言を受けているが、直接窓口に行って相談したり、メールでやり取りをするなど市とは常に連携を取っている。言葉遣いには気を付けましようと言われたことがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止事項をまとめており、玄関や居室などは鍵に頼らず見守りにより自由に入出りできるようにしている。	身体拘束をしないケアについて事業所内外の研修に参加している。家族の了解を得てセンサーマットを使用しているが使わない方向に向けて支援している。転倒しないように職員による見守りを徹底しているが、行動は規制しない事を基本としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対しては厳しく対応している。また虐待防止のポスターを掲示したり、資料を配布して勉強会などを行い周知徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見人制度などは入居時に説明を行っている。また研修会などがある場合には積極的に参加してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前・契約時には重要事項の説明を行い、同意を得ている。また介護報酬などの改定時には、その都度料金表などを用いて説明および同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会を開催しケース記録の開示や家族からの意見などを頂いており、家族会会長には当法人の評議員として運営にも関わってもらっている。	年2回開かれる家族会には半数の参加がある。誕生日や面会時に家族とコミュニケーションをはかり、ゆっくり話をし意見や思いを聞いている。居室の変更を希望されたが空室になった時に移動した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンスにて職員の意見や提案を聞いている。また随時悩みや相談を受け入れている。	日々業務の中で提案などを聞いて、会議やカンファレンスの時に検討し方向性を決めている。不穏なときの対応で困った時は声掛けでうまくいった例を挙げそれを職員みんなで支援に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況はタイムカードにて把握し、勤務希望などを取っている。また管理者などは積極的に職員とコミュニケーションを取りやりがいや向上心をもって働ける環境や雰囲気作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症関連の研修会などには積極的に参加できるようにしている。職員育成のため疑問・問題がある場合には職員が理解できるように説明・指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会・大分県小規模介護ネットワークの会員になっており、勉強会・役員会・各種研修会などに参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者に対して本人およびその家族と話を重ね、入居者の不安等の聞き取りを行い安心してサービス利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族が持っている不安や要望を聞き出し、話し合いを重ねることで不安の解消に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時にはアセスメントを行い、利用者にとって何が必要で、何が不要でないのかなどの確認を行い、必要があれば他のサービスの併用も検討できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各々のできる範囲を見極めて掃除・洗濯・調理などをして頂き、できない所を職員が支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などを家族にお知らせして参加を促している。面会時などには近況報告し外出や外泊も促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の際にはお知らせし、家族に参加してもらっている。また面会は自由で(特別な理由がない限り)面会時間も設定していない。	馴染みの美容室に行っている。家族の意見を聞きながら友人や知人に面会を働きかけている。自宅の付近に行ったり、近所の話をしたりして思いをつなげている。面会は防犯上時間を設定しているが自由である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や関係を把握して位置関係に気を配り、必要に応じて職員の仲介を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もできる限り、病院等で面会したり、家族と連絡が取れるようにして家族や利用者の相談・支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の要望にはできる限り迅速に対応するようにしている。職員間で情報を共有し入居者の意向把握に努めている。	日々の関わりの中で利用者の意向を感じ取っている。チームワークを大切に職員全員で話し合いながら情報を共有し、毎日の支援につなげている。利用者個々に対し思いや意向を大切にしてそれに沿ったケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などはアセスメント用紙にて職員間で共有しており、入居者各々の会話や対応に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・その他の記録簿にて職員全員が把握している。バイタルの異常・精神状態の変化は随時共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、定期的に職員の意見を聞き入居者の状態把握を行い、ケアの統一を図っている。家族には面会時などに話し合っている。	毎月1回のカンファレンスを行い、活発な意見交換が行われるよう働きかけている。自発的な行動を促し、チームでその都度状況に応じたケアプランを立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日中・夜間の状態・状況などを記録し、状態の変化に応じて敏速に計画の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に合わせて病院受診・往診などを組み合わせて必要な支援を行っている。ボランティア等にも参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員などは地域運営推進会議などに参加してもらっている。また地域の幼稚園・中学校・高校の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の状況に合わせて、病院受診・往診を組み合わせて必要な支援を行うようにしている。	入居前からのかかりつけ医をそのまま利用できる。受診に家族が行けない時は職員が付き添い、連絡ノートに状況を記載し申し送りを徹底している。受診の内容を家族にも知らせている。内科や歯科の訪問診療がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の入居者の変化等に対して、常時看護師と相談を行っている。病院受診も看護師を中心に行情報を伝達している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院が利用者に与える負担を考慮して、できる限り早期退院ができるように病院の医師やソーシャルワーカーなどへ働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関して管理者・職員・家族できちんと話し合うようにしている。またターミナルケアを行う際は入居者の状況などを見極め、できる限りグループホームで最後まで過ごせるよう支援している。	終末期について事業所内外の研修を受け、実践に向け取り組んでいる。入所時看取りについて説明をし了解を得ている。状態の変化に応じその都度家族と確認を行っている。看取りを経験し終末ケアについて振り返りを行って今後活かそうとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修会等に職員を参加させている。また緊急時の模擬訓練などを定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時等のマニュアルを作成し職員に配布している。避難訓練は定期的に行い、消防署や消防設備会社の立ち合いでの訓練も行っている。	毎月1回避難訓練を行っている。消防署や消防設備会社立ち合いの元、日中や夜間想定・出火場所想定での訓練をしている。地震時の避難場所になっている。事務室に3日間以上の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある心ある優しい声掛けを行うようにしている。訪室時にはノックを行い、プライバシーを損なわないようにしている。	一人ひとりの思いや意向を把握し尊厳を持ってやさしい声掛けなどを行っている。人格を尊重し耳元で声掛けしトイレ誘導をしている。希望に沿って部屋の入り口にのれんを掛けたり、ドアを閉めるのが嫌な人には開けておく等個別対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の好き嫌いを配慮したり、訪問販売などに参加して欲しいものを選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が何をしたいのか判断して対応している。レクレーションも集団のみだけでなく個別にも行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回は訪問理容院が来苑し、散髪を行っている。必要に応じて盛装や髭剃りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回は料理教室を行い、できる範囲で調理などを行っている。毎日の食事は一部ではあるが共同で作り、できない方には食器洗いやお盆拭きをしてもらっている。	利用者と一緒に料理教室やおやつ教室を開催。誕生会に弁当を取ったり、また忘年会は家族と共に行っている。希望すれば外食にも出かけている。月1回の移動パン屋や週1回コンビニの訪問販売車が来ており、パンやお菓子、飲み物などを買っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取表きにゆうして対応している。食事形態は状態に応じて変更し必要があれば栄養補助飲料を導入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、職員が支援している。義歯を使用している方には定期的にポリデント洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁などがある方に対して、日中・夜間ともに時間を決めて個別にトイレ誘導を行い、失禁の軽減に努めている。	排泄チェックリストにより排泄パターンを把握し、様子を見てトイレに誘導をしている。リハビリパンツや布パンツ、パットなどを一人ひとりに応じて利用し自立に向けた取り組みを行っている。食物繊維の摂取に心掛けて便秘にならないよう努めている。排便もタイミングを見計らってトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、利用者の排便状況を把握し、便秘の入居者には個別に下剤を使用している。また水分量の調整や粉末の食物繊維を摂ってもらい便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	常に温泉が湯船に溜まった状態で入浴は毎日行っている。入浴時間等に希望がある場合には、それに応じる。	温泉が引かれ大きな湯船に利用者同士で入浴して会話を楽しんでいる。毎日入浴できる。嫌がる時は無理強いせず、様子を見て入浴介助している。ご当地特有の共同温泉に入っていた習慣を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールには椅子の他、ソファや畳台を設置しくつろげるようにしている。居室にはプライバシーが守れるように、のれんをかけたしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用している薬剤は一覧表にして確認出来るようにしている。薬剤変更時等には申し送りで全職員に伝わるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が以前行っていたことを中心に役割づくりを行ったり季節ごとの行事を行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は出入り口は開錠されているので、自由に外に出入りできる。入居者が買い物などを希望する場合は職員が付き添い、支援している。	事業所は高台にあり眺めがよく散歩を楽しんでいる。紅葉狩り・ぶどう狩り・菖蒲園・田ノ浦ビーチ・梅を見に近くの公園へなど四季折々にドライブに出掛け季節を感じられるよう工夫をしている。利用者の希望により近くのスーパーへ買い物に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者には、本人で管理してもらっている。買い物の際にも、本人に支払してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどが出せるように支援している。家族等の電話は取り次げるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなどに季節に合わせた飾りつけを行っている。エアコン調整は入居者に確認して行い、食事の際はTVを消して落ち着いて食事できるようにしている。	玄関やホールは広々として外の景色は別府が一望できる。ソファやイスが置かれゆっくりにくつろげる環境である。利用者の作品が飾られている。掃除が行き届いており空調も完備して清潔で明るいホールである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファや畳台を設置してくつろげるようにしている。必要に応じて席配置などの見直しを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた馴染みあるものを持ってきてもらうようお願いしている。	居室の窓からは眼下に別府湾が一望でき眺めが素晴らしい。使い慣れた家具やテレビ、イスなどが持ち込まれこれまでの生活と変わらない居室作りをしている。家族の写真や小物などを置き穏やかに過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の居室やトイレの場所が分からない入居者に対しては目印などを付けている。入居者一人ひとりの出来る事を探し、できるだけ自立してもらえるような支援を行っている。		